

岩手県大槌町で地場木材を活用した復興支援を行っている能代市海詠坂の県立木材高度加工研究所(木高研)は9日、今年7月末に同町で実施した木工ワークショップ(WS)の活動を振り返ったほか、今後の取り組みについて意見を交わした。

木高研は24年5月に同町と震災復旧・復興に向けた連携協力協定を締結。仮設団地内への木製歩道橋架橋やウッドチップ舗装の設置、昨年度は行っている能代市海詠坂の県立木材高度加工研究所(木高研)は9日、今度は町産木材の利用拡大を目指し、町内の公共施設で必要としている

関係者からのヒアリング



大槌町でのWSを振り返ったプロジェクトチームのメンバー

今後できること探る 木高研 大槌町(岩手)の復興支援で

る木製品の開発・キット化を計画。官民協働のプロジェクトチームを立ち上げ、デザインやアイデアを考案するなど準備を進めてきた。

プロジェクトチーム主催の木工WSは、7月末に同町で子どもたちを対象に開き、町産スギを使つたハート型のベンチを製作した。

木高研で開かれたこの日の会合には、構成メンバーの渡辺千明准教授、足立幸司准教授、木を使つた建築や家具デザインなどを手掛けるHUG代表取締役の山田敏博さん(東京都)、内装木質化に取り組むk.i.k.i代表取締役の高橋理徳子さん(五城目町)、能代市富町で家具製造工房を営む湊哲一さんが参加した。



地域の人への感謝を込め、収穫した野菜料理を振る舞った会食(崇徳小で)

小 崇徳 小 収穫の喜びを感じ 手作り料理に舌鼓

能代市崇徳小(佐藤勝明校長)で9日、収穫感謝の会が開かれた。全校児童で作った野菜やコメを使った料理を地域住民に振る舞い、感謝の気持ちを伝えた。

同校では毎年、地域住民との交流や教育などの一環で、アグリ檜山や桧山地域まちづくり協議会などの協力を得て、田植えや稻刈り体験を行つて

収穫感謝の会にはアグリ檜山、桧山地域まちづくり協議会、同校同窓会など体験学習で児童と交流のある団体の代表者や、登下校などで見守り活動を行う地域住民ら約10人を招待した。

学校農園で収穫した野菜などを材料に、3年生がトマトとホウレンソウをそれぞれ使つた野菜ジユース、4年生はニンジンやキャベツなどの野菜炒め、5年生はナスやニンジン、ダイコンなどの漬物、6年生はジャガイモやネギなどを使った豚汁を調理。コメは梅やシヤケなどを真材にしたおにぎりにしました。

架空請求詐欺で

能代市男性 60代 20万円だまし

能代署は10日、能代市内の60代男性が架空請求詐欺の被害に遭い、現金20万円をだまし取られたと発表した。

同署によると、9日前11時ごろ、男性のスマートフォンに「有料動画の未納料金が発生している」とのショートメールが送られ、メール記載の

などを基に、WSは好評だったことを報告。一方、製作したベンチは町放課後子ども教育支援センターの屋外に設置されている。

今回WSで製作したべ

るが、幅はぎ部分に割れが生じているとし、近く修繕することを確認した。

「感謝の気持を探していきたい」との意見も出された。

話していい

5ヶ月かけ組み上げ